

漁況海況予報事業[※]

阪本 俊雄・竹内 淳一

吉村 晃一・武田 保幸

調査船「わかやま」仲井孝夫他6名

目 的

本県沿岸及び潮岬南方沖合の海況と本県沿岸漁業の漁況をモニタリングして、海況ならびに海況と漁況及び資源との関係に関する研究を行なう。同時にこれらの情報を漁業関係者ならびに関係機関に提供して操業と漁業経営の合理化に資する。

方 法

昭和59年度漁況海況予報事業実施方針による。

結 果

1. 海況の概要 黒潮中心部の潮岬南での離岸距離（湊）の変動は以下のとおりで、4、5月及び12月下旬～3月は離岸、6～12月上旬はほぼ接岸傾向であった。

| 月 | 1984年 | | | | | | | | | | | | 1985年 | | |
|----|-------|----|----|----|--------|----|--------|--------|----|----|--------|----|-------|---|---|
| | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 |
| 上旬 | 50 | 40 | 25 | 20 | 20(25) | 25 | 15 | 15 | 10 | 35 | 20 | 40 | | | |
| 下旬 | 30 | 40 | 15 | 30 | 20(20) | 25 | 15(10) | 20(15) | 30 | 25 | 25(50) | 50 | | | |

() は「わかやま」による観測。

黒潮流型はC型（4～5月）→B型（5月下旬～6月上旬）→C型（6月中旬～7月）→D型（8月）→N型（9月上旬～10月中旬）→C型（10月下旬～12月）→B型（1～3月）と経過し、9月には遠州灘沖冷水塊は一時消滅した。

紀伊水道内部域の水温は、冬春季気温の異常寒冷化のため4、5月は非常に低目で、昇温が遅れた。しかし、6月には黒潮の接岸によって5月の16～17℃から一挙に20～22℃に昇温した。

以後この黒潮の接岸によって12月まで表面では平年より高目であった。しかし、中下層では12月を除いた全期間を通じて低温で、ことに9、10月には約-7℃と著るしかった。

水道外域も水道内とほぼ同じ傾向で、4～10月の中下層が低温、ことに9月では約-7℃と著るしかった。このような紀伊水道域の中下層水温の低温化は近年の1977年、'78年、'80年、'82年、'83年にも起っている。

熊野灘では表面は4～8月に平年より高目。30～50mでは5～10月は平年より低目であったが、紀伊水道側ほどのものではなかった。暖水舌形成は7月の大王埼南沖のE137～138°付近からのものと

※ 漁況海況予報事業費による。本事業報告は「昭和59年度漁況海況予報事業結果報告書」として別途報告している。

10～2月上旬にかけての熊野灘沿岸域へのものが顕著であった。

2. 漁況の概要

マダイ 水道北部の加太一本釣は、春季の低水温のため春の4～5月は大不漁。6～11月は平年並。12～3月大不漁。水道中部は上記冬春季の低水温による内海マダイの移出により底曳、定置、釣ともかつてない大好漁。5月まで続く。水道外域一本釣は前述の近年の中、下層の低温化で大不漁。

タチウオ 紀伊水道下層水温の低温化で周年を通じて大不漁。

マルアジ 近年多くの沿岸性重要資源は不漁に落ち入っているなかでマルアジのみ資源は増加しているとみられる。1984年の2そうまき網漁獲量は2,765tと過去最高になった。越冬群(2月)ならびに秋期南下群(11月)において好漁。

マアジ 近年来、漁獲は低い水準で横這い状態。春季の低温で漁期1ヶ月遅れる。

マサバ 資源は減少傾向にあり、その変動はタチウオと同じような傾向を示している。近年は春期の産卵群は全くなり、漁獲対象は秋期の内海南下群。2そうまき網で5,202t、1そうまきで2,112tと平年漁。

ゴマサバ 積極的に漁獲の対象とはされないが、市江崎以南の紀南漁場ではサバ類の約60%を占めている。

マイワシ 本種も積極的に漁獲の対象とはされないが、本年春季の来遊は多く、低水温のためにその滞留期間は長かった。

カタクチワシ 資源は非常に縮少していて漁獲に特筆すべきものはみられない。

ウルメイワシ 6月以降の黒潮の接岸によって紀伊水道域で大羽近年になく好漁。また、8月下旬以降は潮岬近海で棒受網による当才群好漁。

シラス 春季の異常低温により1963年以来の大不漁。

ブリ類 定置網による漁獲はブリ、ヒラマサともに減少。ハマチは釣、定置網ともに各地ともかつてない好漁。

カツオ 漁場が沖合化の傾向にあって、昨1983年とほぼ同じ並漁。

ヨコワ 1984年冬季の異常寒冷で1985年冬期に好漁。

ソーダガツオ 熊野灘暖水舌発達で11～1月に棒受網で好漁。

サワラ 秋期の水道外域へのサゴシの南下は著るしく、冬期のサワラー一本釣も好漁で経過。近年の本種資源の水準は高い。

スルメイカ 紀伊水道側の夏イカは大不漁。熊野灘の秋、冬イカは好漁。